

阿蘇くじゅう国立公園

報告者：環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所 国立公園利用企画官 森田勇治

阿蘇くじゅう国立公園では去る 10 月末より 2 泊 3 日で火山、草原、水、温泉をコンセプトにファミトリップを開催した。本日はそれを元に阿蘇くじゅう国立公園のマジカル・ミステリー・ツアーにみなさんをご招待したいと思う。私はナビゲーターを務めさせてもらう阿蘇くじゅう国立公園の森田を申します。「大分空港へタイムトリップします。JAL661 便は定刻に大分空港に到着しました。大分は晴天に恵まれ、みなさまを乗せたツアーバスは阿蘇くじゅう国立公園マジカル・ミステリー・ツアーへと出発します。

左手に別府湾を望みながら進んできたバスの目の前に朝日を受けて黙々と立ち上る雪煙が見えてまいりました。ここは温泉源、大分の代名詞でもある温泉とし別府になります。温泉の源泉数、湧出量ともに日本一を誇ります。

みなさまを乗せたバスは別府市内を眼下にのぞみながら別府温泉の源とも言うべき伽藍岳に登ってきました。ここからが国立公園内になります。伽藍岳は阿蘇くじゅう国立公園の中でも小宇宙というべき存在で、その噴火口はエメラルドグリーンのお湯溜まりをたたえ、今も盛んに噴煙を上げ、地球の息吹を感じる場所でもあります。またその麓には日本有数の炭酸濃度を誇る塚原温泉があり、常に老若男女で賑わっています。車窓から見える山々は紅葉の真っ盛りです。青い空に赤・黄色の木々が生えてとてもきれいです。

車は山間の高速道路を走り、ラクダのような山容の由布岳の麓にやってきました。ここが九州の高級リゾートと呼ばれる由布院温泉になります。九州の温泉地としては阿蘇の黒川温泉と並んで常に全国で人気上位にランキングする温泉地です。

次に向かうのは阿蘇くじゅう国立公園の目玉の 1 つになる九重連山の麓に広がる長者原の草原地帯です。九重連山の麓に広がる中間湿原として国内最大級の面積を有する湿原であり、坊ガツルタデ原湿原としてラムサール条約の登録地となっています。さらに九重連山の麓に位置するこの地域は湧水も大変豊富で神秘的なこの男池の湧水は特に有名です。またその近くには天然の炭酸泉もあり、砂糖を入れれば天然のサイダーの出来上がり。太古の昔に火山の噴火によってもたらされた九重地域は火山と草原と水、温泉の恵みが織りなすワンダーランドといえます。九重地域は九重連山への登山や草原でのトレッキング、乗馬体験もでき、九重連山の山々のアクティビティも盛りだくさんとなっています。

みなさまを乗せたバスは九重連山の山並みを抜けて阿蘇へと入ってきました。阿蘇は約 9 万年前の大噴火によってできた世界最大級のカルデラ地形、それを取り巻く広大な草原景観が特長となっています。一周 128km、直径約 30km にも及ぶ雄大なカルデラの中には約 5 万人の人々が農林業や酪農に従事しながら日常生活を営んでいます。まさしく火山と人々との共生が行われています。世界でも稀な存在だと思います。この巨大な阿蘇カルデラの中に阿蘇中央火口丘群があり、現在も活動を続ける中岳火口は昨年 10 月にマグマ水蒸気爆発を起こしまし

た。現在は噴火警戒レベルも 1 となり正常化しています。阿蘇観光の最大の目玉である火口見学ですが、現在は火山ガスの影響により規制されています。環境省をはじめ関係自治体により来年 3 月の火口見学再開に向け懸命な普及作業を行っているところです。また阿蘇独特の景観を作る阿蘇の草原は平安時代に編集された延喜式で、既に草原としての記述がなされています。今日 1000 年の草原と言われる所以になります。野草の草原として日本一の規模を誇る阿蘇の草原は先人の手によって野焼き等により、1000 年以上維持されてきました。阿蘇外輪山、中央火口丘へと向かう車窓より眺められる雄大な草原で、のんびりと草をはむ赤牛の姿は火山と草原と人々の営みを映す象徴的風景としてとても印象的です。阿蘇においてはこのような自然景観を活用した熱気球、ハンドグラインダー、天空のヨガ、ヘリコプターによる火山見学、九重とは一味違ったワイルドなアクティビティが盛んです。近年は阿蘇の雄大なカルデラと草原と活かした 100km を超えるカルデラトレイルランや将来的にはツール・ド・フランスに匹敵するような自転車競技の計画もあり、阿蘇の自然を満喫するため、コンテンツの可能性は無限大であるといえます。阿蘇は昨年の熊本地震でかなりの被害を受け、山々にもそのときの傷跡がまだあちこちに残っていますが、普及事業も急ピッチで進んでおり、以前のように穏やかでのんびりとした阿蘇の風景が一刻も早く戻ることを心から望みます。

みなさまの阿蘇くじゅう国立公園マジカル・ミステリー・ツアーもそろそろ終わりに近づいてまいりました。今年も先日、南国の阿蘇くじゅうでも初雪が舞いました。火山、草原、水をキーワードに阿蘇くじゅう国立公園はみなさまをいつでも温かくお迎えいたします」。